

4 歯の健康

4.1 むし歯のない幼児の増加 ◎

	むし歯のない幼児（3歳児）の割合	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.1.1 幼児（3歳児）	69.4%	80.0%以上	「むし歯のない幼児の割合」については、国や県の水準等を踏まえて目標を設定し、2010年までに80%以上を目指します。
県	4.1.1 幼児（3歳児）	58.1%	80.0%以上	国と同じ
国	4.1.1 幼児（3歳児）	59.5%	80.0%以上	(1985年43.8%→1997年59.5%)

4.2 フッ素塗布を受ける幼児の増加

	フッ素塗布を受ける幼児の割合	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.2.1 幼児	49.2%	60.0%以上	国の水準等を踏まえて、2010年までに、現状から10%程度の増加を目指します。
国	4.2.1 幼児	39.6%	50.0%以上	

4.3 12歳児の一人平均むし歯の減少

	12歳児の一人平均むし歯数（DMF歯数）	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.3.1 12歳児	2.6本	1.8本以下	国のDMF歯数の現状は、2.9本であり、本市は国の水準よりよい状況ですが、市の現状調査で最も状況のよかった学校の水準を目標値に設定し、中間評価で目標値を見直します。
県	4.3.1 12歳児	3.3歯	1歯以下	国と同じ
国	4.3.1 12歳児	2.9歯	1歯以下	歯科疾患実態調査、学校保健統計調査の推移や、地域集団における歯科保健対策による改善実績等のデータから設定。(1.4歯)

※DMFとは、永久歯の処置歯、未処置歯、喪失歯の合計を健診を受けた人数で割った値

4.4 60歳で24本以上自分の歯がある人の増加 ◎

	60歳（55～64歳）で24本以上自分の歯がある人の割合	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.4.1 60歳（55～64歳）で24本以上自分の歯がある人	52.1%	増やす	本市は国の目標値をすでに達成していることから、目標値を設定せずに現状からの増加を目指します。
国	4.4.1 60歳（55～64歳）で24歯以上自分の歯がある人	44.1%	50.0%以上	50歳代での歯の喪失を防ぐことを目的に、60歳における目標を設定

4.5 80歳で20本以上自分の歯がある人の増加 ◎

	80歳（75～84歳）で20本以上自分の歯がある人の割合	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.5.1 80歳（75～84歳）で20本以上自分の歯がある人	22.9%	増やす	本市は国の目標値をすでに達成していることから、目標値を設定せずに現状からの増加を目指します。
国	4.5.1 80歳（75～84歳）で20本以上自分の歯がある人	11.5%	20.0%以上	「8020」運動

4.6 4mm以上の歯周ポケットのある人の減少

	4mm以上の歯周ポケットのある人の割合	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.6.1 40歳	52.0%	35.0%以下	国や県の水準等を踏まえて、2010年までに、40歳については現状から3割程度の減少、50歳については現状で60歳で24本自分の歯がある人の値を目標とします。
	4.6.2 50歳	63.9%	52.0%以下	
県	4.6.1 40歳	25.6%	17.9%以下	国と同じ
	4.6.2 50歳			
国	4.6.1 40歳	32.0%	22.0%以下	3割以上の減少
	4.6.2 50歳	46.9%	33.0%以下	

4.7 定期的に歯科健診を受ける人の増加 ◎

	定期的に歯科健診を受ける成人の割合	現状	目標値	目標値の設定にあたっての考え方
市	4.7.1 定期的に歯科健診を受ける成人	16.0%	34.0%	基準となる国のデータが古く、県の目標値の設定もないことから、「健診を受けている人(16.0%)」「自覚症状がありながら何も取り組んでいない人(18.4%)」の合計を本市独自の目標値として設定し、2010年までに現状から2倍程度の増加を目指します。
国	4.7.1 過去1年間に歯科健診を受けた55～64歳	16.4%	30.0%以上	

※国の目標値は「55～64歳」であるとともに、「平成5年保健福祉動向調査」のデータにより設定されています。